

講習会に 130人参加

住宅基礎
鉄筋工業会

住宅基礎用溶接鉄筋メーカーと販売業者で組織する日本住宅基礎鉄筋工業会（会長・山口龍二タツミ社長）は6日、都内で委員会および第4回講習会を開催した。会員と溶接鉄筋ユーザーの住宅メーカーから約130人が参加した。

同会は住宅基礎用溶接鉄筋の品質保証や規格化を行い、住宅品質の向上を推進している。現在の会員数は賛助会員を合わせて39社。

開会挨拶で森山雅明副理事長（メークス社長）は「最近では新潟中越沖地震もあり、当工業会のあり方とともに住宅鉄筋の重要性がますます注目されています。今回の各委員会や講習会でしっかりと勉強してほしい」と挨拶した。

鉄・非鉄スクラップヤード業者の有明興業（本社・東京都江東区若洲、社長・松岡和人氏）は先週3日、都内で「第2回廃棄物セミナー」を開催。廃棄物排出事業社76社から約130人が出席した。

松岡社長は「当社は1958年に創業し、現在2万社を超える事業所の廃棄物処理を行っている。今後安心して安全な廃棄物処理とともに、お客様の声を第一に、ニーズに合った廃棄物処理を考えたい」と挨拶。今年11月に稼働を開始する予定の新工場「リサイクルポート」（江東区若洲）のPRビデオも上映された。

セミナーでは環境法を専門とする佐藤泉弁護士が「産業廃棄物処理における企業の社会的責任と循環型社会形成のために」をテーマに講演を行い、不法投棄や委託基準違反に当たる事例の紹介や、コンプライアンス経営の手順などを解説した。